



病院長挨拶

院長 佐藤 敦夫

当院は城陽市の丘陵地に位置しています。5階病棟から西に目をやれば、木津川の流れの向こうに甘南備山が見え、南に目を転じると、天気の良い日には生駒山を望むことが出来ます。病院は緑豊かな自然に囲まれており、春は梅、桜、躑躅、藤と途切れることなく花を楽しむことが出来ます。市街化調整区域に立地しておりますので、病院を取り巻く環境は変わりようがないと思っておりましたが、新名神の開通を見越してここ数年の間に当院の周囲にも配送センターが次々と建設されています。今後は病院から数分の所に新名神のスマートICが出来、京都初のアウトレットモールも開設されるとのことで、病院の周囲も少しは賑やかになりそうです。

陸軍演習地の隅っこに、傷痍軍人療養所としてスタートしたのが当院の始まりと聞いております。その病院が時代の要請により国立の結核療養所となり、国立病院機構病院の障害者病床群の病院へと変遷してまいりました。現在は実質、重症心身障害者病棟120床、障害者病床120床、結核病床20床、一般急性期病棟40床で、平均すると360名の小児科 脳神経内科 呼吸器内科の患者さんが日々入院されています。

当院の特徴は、治らない病気や、障害を抱えた人とじっくりとお付き合いすることにあります。小児科では出生時の重い障害を抱えながら当院を療養の場としている患者さんを診療しています。脳神経内科で診察している神経難病の患者さんの多くは、治療方法が乏しく、徐々に病状は進行してゆきます。呼吸器内科で診療しているCOPDや間質性肺炎の患者さんも同様で、徐々に病状は進行してゆきます。

世の中の医療の流れは、高度医療に対応した総合病院で集中的に病気を治療することに重きが置かれており、より短期間で治療を終了することで収益があがる制度に設計されています。そのため、急性期総合病院ではクリニカルパスに沿って効率よく治療が行われ、治療によっても改善が見込めない状態になれば退院となります。そのためどうしても、一人の患者さんとじっくりとお付き合いすることは難しくなります。

治療によって改善が見込めなくなっても、決して病気や障害がなくなってしまう訳ではありません。むしろ病気を抱えながら日常生活を送るために、医療や介護を含めた様々な手助けが必要となります。当院では障害者病棟を利用してある程度余裕を持った入院期間を設定可能です。そのおかげで、慢性疾患を抱えた患者さんとじっくりとお付き合いしながら、将来を見据えた治療、リハビリ、生活支援を行なう事が出来ます。それに加え、脳神経内科、呼吸器内科、小児科では地域の急性期病院と遜色のない数の専門医が勤務しており、それぞれの領域では急性期の疾患に対しても質の高い医療を提供しております。そのためか診断から急性期、慢性期と長期にわたって当院に通院を継続されている患者さんがたくさんおられます。

治らない病気や、障害を抱えた人とじっくりとお付き合いする中で、私が教えていただいたのは、同じ病気を抱えていても個人個人が多様な価値観を持っており、その価値観は状況によって変化するということでした。世間では「何かを成し遂げる」ことに生きていく価値が求められるがちです。その一方で「生きていくことそのものに価値があり、それはまた本人の権利でもある」という価値観が障害者医療を支えています。

患者さんの様々な価値観に寄り添いながら、障害や慢性的な疾患を抱えた患者さんが安心して診療を受けられる病院であり続けられるように、急性期総合病院や個人の先生方とも連携を取りながら、地域の中での当院の役割を充実させてゆくことが私の使命と考えております。

臨床検査科 紹介

検査技師 前田 香織

当院臨床検査科は、7名の臨床検査技師で業務を担っています。臨床検査は大きく分けて検体検査と生理機能検査に分かれます。検体検査は生化学・免疫・血液・一般・微生物・病理です。多くの方が一度は経験のある採血は生化学（AST や ALT）・血液（白血球数）など、一般検査は尿検査、微生物検査は尿や痰の細菌検査、病理検査は手術で取り除いた腫瘍の良性・悪性を調べる検査です。生理機能検査は心電図・超音波・呼吸機能検査・脳波などで、直接患者さんと関わる検査です。

当院通院中の患者さんは呼吸機能検査を経験されたことのある方も多いと思います。＜検査＞といわれる中でもこの検査に苦痛を感じておられる方は多く、「一番嫌です」と話される方ばかりです。しかし皆さんにできる限りの努力をさせていただいています。また、睡眠中の無呼吸の有無を調べる睡眠時無呼吸の検査を受けられる患者さんも大勢います。検査に必要な機器を頭や身体に装着して寝ていただくのですが、大掛かりな検査です。「説明は聞いたけど想像以上だった」という声をよく耳にします。

コロナが流行し始めて二年以上が経過しましたが、コロナのPCR 検査や抗原検査も臨床検査科が担当です（このことで今まで以上に臨床検査技師の存在が認知されたような気がします）。この検査は機器にかける為の前処理が存在し、最低でも結果が出るまでに一時間はかかります。コロナ検査に限らずですが、検査や検体が集中することにより、患者さんには長い時間お待ちいただくことも多いですが、できる限り迅速に対応しています。

臨床検査科では、「正確」・「迅速」に結果報告ができるよう努めています。有用で信頼性の高い結果を提供できるよう、毎日内部精度管理（使用機器の確認など）を行い、定期的に全国規模で行われる日本医師会主催の外部精度管理（他の参加施設と同一検体を使用した検査）や様々な勉強会にも参加し、日々努力しています。

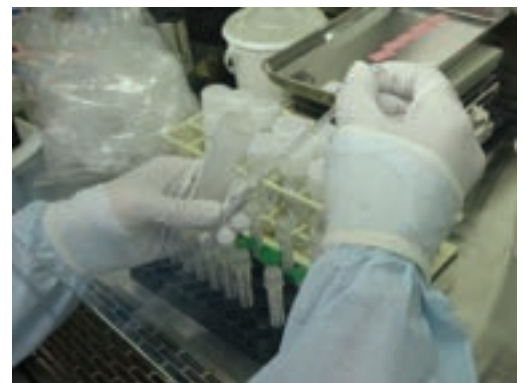
この記事が皆さんのお目にとまる頃には、今の窮屈な日々が少しでも緩和され、安心できる日常になっていることを祈っています。



生化学検査を実施している様子



呼吸機能検査で使用する機器



コロナ検体の前処理をしている様子

パーキンソン病リハビリテーションについて

国立病院機構南京都病院 脳神経内科 臨床研究部長 川村 和之

パーキンソン病は、安静時振戦、筋強剛、動作緩慢を3大症状とする神経変性疾患です。中脳黒質のドパミン作動性神経細胞が加齢を上回るスピードで減少したために、これらの症状が引き起こされます。パーキンソン病は薬物治療が最も進んだ神経疾患です。パーキンソン病の発症から5から6年の間は適切な薬物治療によって、患者さんは発症前の生活を維持することが可能です(この時期を「ハネムーン期」と呼びます)。しかしながら、ハネムーン期を過ぎると動作緩慢の日内変動やジスキネジアと呼ばれる不随意運動が出現し、患者さんの日常生活動作のレベルが低下し始めます。進行期の治療にも、従来とは作用機序の異なる新しい治療薬やデバイス補充療法(脳深部刺激療法(DBS)、L-ドパ持続経腸療法(LCIG))の開発・導入によって進歩が見られますが、さらなる有効な治療法の確立が望まれています。このような現状を見ると、ハネムーン期を出来るだけ長く維持出来るように、パーキンソン病の早期治療にも改善すべき点がないか検討が必要であると言えます。

従来、パーキンソン病治療の中で、リハビリテーションは進行期の薬物治療を補完するものと位置付けられていました。近年、早期のリハビリテーションにはパーキンソン病の進行を遅らせるとともにパーキンソン病治療薬の内服量を維持出来る効果があることが臨床研究で示されました。この知見に基づいて、パーキンソン病が軽症である時期からリハビリテーションを含めた集学的治療を行うことが推奨されるようになりました。

LSVT® (Lee Silverman Voice Treatment) は、アメリカ合衆国で考案されたパーキンソン病に特化したリハビリテーションプログラムです。日常生活動作の改善が期待できる LSVT® BIG と発声や構音の改善が期待できる LSVT® LOUD の二つのプログラムがあります。いずれも4週間の短期集中リハビリテーションで、講習会に参加して認定を受けたリハビリスタッフが患者さんと1対1の訓練を実施します。国立病院機構南京都病院では、2年前から入院リハビリテーションの形で LSVT® BIG を実施しています。まだ実績はありませんが、LSVT® LOUD も実施可能な体制にあります。

パーキンソン病では、早期から薬物治療とリハビリテーションを適切に組み合わせた治療を行なって行くことが大切です。リハビリテーションを希望されるパーキンソン病患者さんがいらっしゃいましたら、是非南京都病院にご紹介下さい。



LSVT® BIG 訓練中の様子

地域医療連携室

地域医療連携係長 都市 美晴



令和4年4月から地域医療連携係長になりました看護師長の都市（といち）美晴と申します。

当院の専門医療は呼吸器疾患、神経・筋疾患、重症心身障害、結核であり、近隣医療機関、開業医、訪問看護ステーション、福祉サービス機関の皆様と連携を円滑にし、患者紹介・逆紹介等を行いながら地域医療向上に努めています。

地域医療連携室は患者さんが外来受診時または入院早期から退院後も住み慣れた家庭や施設などで安心して生活が送れるよう、患者さんやご家族のご希望・不安などを把握し、主治医・病棟・地域の様々な機関と連携をして退院・転院調整を行っています。

今後は地域住民を対象とする『市民公開講座』の再開や ICT を活用して顔の見える関係を築いていきたいと思ひます。



「自分らしく生きること」のお手伝いを

訪問看護ステーション マハロ

訪問看護

訪問リハビリテーション



令和4年1月に開設しました（山城大橋の西側）訪問看護ステーション マハロです。

ハワイに行かれた方ならピンとこられる方も多いと思いますが、「マハロ」の直訳はハワイ語で「ありがとう」という意味です。そして「マハロ」には、「あなたが魂の中に存在しますように」や「あなたらしく生きられますように」という思いやりの優しい気持ちが込められています。

「自分らしく生きる」というのは、ご病気を持たれた方やご高齢の方にとって簡単なことではありません。徐々に自分らしさを見失い、日々の楽しみを見出せなくなる方が多い中、ご自宅にお伺いし、一緒に目標を見つけ、また私たちの訪問も日常の楽しみになり、「自分らしく生きる」ことのお手伝いができる。そんな事業所にしていきたいと考えております。

リハビリスタッフも PT・OT 二名在籍しており、医療・介護と広い範囲でサポートさせていただくことが可能です。利用者・そのご家族の不安や障害を、いろいろな角度からサポート、解決していきたいと考えています。

一つ一つの感謝、一つ一つの「マハロ」を増やして、京田辺・精華町という地域を盛り上げていきたいと考えています。今後とも宜しくお願ひ致します。

- 京都府京田辺市草内中垣内16-12
- TEL 0774-64-7220
- FAX 0774-64-7221
- 休業日：木曜日・日曜日
※24時間緊急時対応あり
PT/OT在籍
3月より精神科訪問看護開始
- 訪問エリア
京田辺 精華町 左記エリア以外もご相談ください
- e-mail
miyamaki2016@gmail.com
なんでもお気軽にご相談ください



管理者 構井 真二

西病棟1階の紹介

看護師長 石橋 憲介

西病棟一階は重症心身障害児（者）病棟です。ここに入所しておられる患者さんは、疾患により日常生活を一人で行うことができない方がほとんどです。また、長期にわたり入院されている方も多いため、生活の場としての役割も担っています。そのため、食事や入浴などといった日常生活の援助を提供するだけでなく、療育活動を中心とした患者さんたちが日々を楽しく過ごせるような季節の行事や日々のレクリエーションなどの支援も行っています。

当病棟には医師、看護師だけではなく、児童指導員や保育士、療養介助専門員などが常駐し、更には理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士など多岐にわたる職種が連携して、患者さんのサポートにあたっています。重症心身障害児の方たちは病気の管理だけではなく、日常生活動作の保持や向上、ご家族との関わりといった精神的・社会的な支援も必要になってきます。様々なスタッフのスキルを十分に活かし、患者さんの生活全般に対して支援を行なっています。

重症心身障害児（者）の方は言語的コミュニケーションが困難な方が多いため、看護師が患者さんの発する些細なサインを適切な観察によって細やかにキャッチしていかなければなりません。そのために病棟では勉強会やカンファレンスを行い、患者さんの安全を確保し、安心を提供できるように知識・技術の習得と共有に努めています。

そして私たちが一番大切にしているのは、常に高い倫理観を持って患者さんの支援を行うことです。当病棟には生後間もなく入院され、何十年も病棟内で生活されている方もいます。そういった方たちに少しでも生きることの喜びや楽しみを感じられるように、支援していきたいと思っています。

また、在宅で過ごされている方々の負担を軽減する目的で、短期入所の受け入れも行なっています。ぜひお気軽にご相談ください。



春のお花見



新採用職員紹介

教育担当看護師長 濱村 恵子

令和4年4月1日に南京都病院の新メンバーを迎え入れました。コロナ禍で学生時代は実習や授業の制限をやむなくされてきました。不安の中、4月1日から3日間の新採用者研修が行われ、国立病院機構や南京都病院について知り、社会人としての基本的なマナー・接遇、コンプライアンスなど、働くために必要なことを学びました。少しでも早く職場に慣れ、「私たちは、分かりやすく、安全で安心して受けられる質の高い医療を提供します」という南京都病院の理念に基づいた行動がとれ、信頼される職員に成長できるように支援を続けていきます。どうぞよろしくお願ひします。



交通のご案内



- 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
- JR学研都市線 京田辺から 京阪宇治バス約15分
- JR奈良線 山城青谷から 徒歩20分

＊…各駅より
送迎車あり

診療科のご案内

- 内科
- 脳神経内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- 小児科
- 外科
- 整形外科
- 呼吸器外科
- 皮膚科 (入院のみ)
- リハビリテーション科
- 放射線科
- 心療内科 (入院のみ)
- 歯科 (入院のみ)



独立行政法人国立病院機構

南京都病院

(当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください)

〒610-0113 城陽市中芦原 11 番地
TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765
時間外緊急時 0774-52-0642
URL <https://minamikyoto.hosp.go.jp/>

地域医療 連携室

電話受付時間の延長について
平成30年12月1日から、申し込み受付を19時まで延長させていただきます。

電話受付時間
8:30～19:00 月～金(土・日・祝日休み)
TEL:0774-52-0191(直通)
0774-52-0065(代表)
FAX:0774-58-0270

予約状況を確認し、その場で受診日時をお返事いたします。
なお、お時間を要する場合は折り返しお返事させていただきますので、ご了承ください。

E-mail: 407-renkei@mail.hosp.go.jp